

第75回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成30年12月3日（月） 14：00－15：00
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、中須賀委員、山崎委員
 - (2) 政府側
内閣府宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、須藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、森参事官、山口参事官
4. 議事次第
 - (1) 宇宙基本計画工程表改訂案について
 - (2) その他
5. 議事
 - (1) 宇宙基本計画工程表改訂について、宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。
 - 11月1日にサービスを開始した準天頂衛星「みちびき」について、その利用を進めていくことが重要になるが、今後、他国の測位衛星に負けないように機能・性能を高めていくことが必要。そのための予算の確保が必要になる。
 - 「ひまわり」については、予算的観点からも、他の機器を相乗りさせるということも考えてはどうか。
 - 温室効果ガス観測衛星（GOSAT-2）については、地球環境問題など、国際的にもっと活用方法を検討していくべきと考える。
 - 技術試験衛星「ETS-10」で何をやっていくのか検討を進めていくとともに、研究者の技術コミュニティの継続が大事。
 - 宇宙状況把握「SSA」は非常に重要。今後、SSA衛星などの先進的な技術も含めて、広い視野で検討を進めていくことが重要。
 - 再使用ロケットについては、米国の単なる後追いにならないように、長期ビジョンを見直す中で、再使用型ロケットの在り方についても検討が必要。
 - 宇宙ベンチャーに大企業の知見が活かされていないという課題がある。人材の流動性確保が課題。
 - 宇宙デブリ対策については、まずは、総括的な全体像を整理することが必要。その上で、日本としてどのような対策を講じていくべきか検討していくことが必要。
 - 先日、宇宙活動法が全面施行されたが、今後は、これまで宇宙に接点のなかった方々を含めて、2030年代に宇宙産業を倍増という目標の達成に向けて取り組んでいくことが必要。

以上